

虎：宣王 (楚国の王)

狐：昭奚恤 (宣王から北方を治めるように命じられた大臣)

百獣：周囲の国 (当時、楚国の北方にあった、魏及び趙の国)

『戦国策』でこのたとえを語る男 江乙 (遊説家・楚の国から圧迫を受けている魏の国から送り込まれ、昭奚恤を陥れ、北方の大臣 (昭奚恤) を交代させようとしたと言われている。)

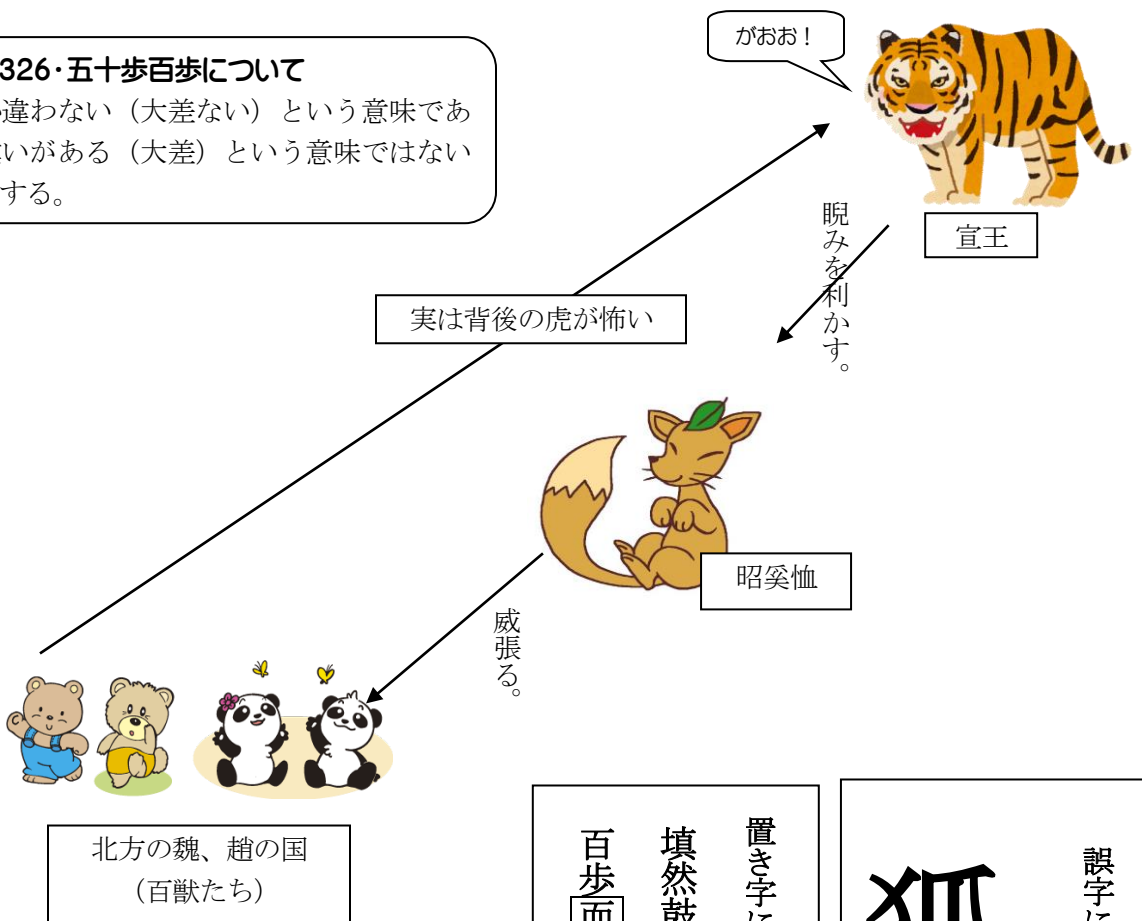
宣王 「北方の魏と趙が、昭奚恤を恐れているという噂は本当か？」

教科書本文を江乙が語る。

江乙 「いいえ、昭奚恤の後ろで目を光らせている王様が怖いのです。」

◎江乙が「こぞ」「はい」と答えると王を侮辱することになる。「いいえ」と答えると昭奚恤に疎まれることになる。しかし、北方にいるのでわからない。この話で一番のキツネは、江乙なのかもしれない。

前ページ P326・五十歩百歩について
五十歩しか変わらない (大差ない) という意味であり、倍の違いがある (大差) という意味ではないことに注意する。



誤字に注意
瓜 ○
爪 ×

置き字に注意 □の部分
填然鼓之 曳兵而走
百步而后止 五十步而后止

(書き下しの時) 助詞と助動詞は、ひらがなにすること! P 327
「不可。直不百步耳。是亦走也」
不…打消の助動詞「なる」
耳…限定の助詞「のみ」
也…断定の助動詞「なり」

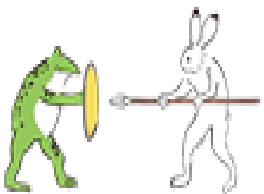
※教科書P 326 「走」について。負けて逃げる「**敗走**」が思い浮かぶだろうか。また「**敗北**」という熟語の「北」は、この

熟語の場合、方角ではなく、「北^にげる」(逃げる)という動詞で読む漢字でもある。

教科書P 329 次の故事成語のいわれや意味について調べよう。

矛盾

矛盾…銅器から鉄器へと変わっていく時期に、武器商人が丈夫な鉄製武器を売り込むために使われた商売文句か？槍から全身を守るための盾ではあまりにも重すぎるため、上半身だけを守る(自分の腕力だけで持てる)大ききだったと言われる。(左図参照)



推敲

「題李凝幽居」

李凝の幽居に題す

敵いたら寝ていた鳥が起きるじゃないか！という説もある。

閑居少隣並
草徑入荒園
鳥宿池辺樹
僧敲月下門
過橋分野色
移石動雲根
暫去還來此
幽期不負言

閑居 隣並(りんぺい)少(まれ)に
草徑(くさけい)荒園(こうえん)に入る
鳥は宿る 池辺(ちへん)の樹
僧は敲(たた)く 月下の門
橋を過ぎて 野色(やしよく)を分かち
石を移して 雲根(うんこん)を動かす
暫く去りて 還(ま)た此に來たらん
幽期 言に負(そむ)かず

園(おん)
門(もん)
根(こん)
言(ごん)

偶数句末に、発音が似た字を入れる。
↓ 押韻
レポート⑨で詳しく学ぶので覚えておくこと。

助長

「守株」にも出てきた「宋人」が行ったこと。とかく「宋人」は愚かな民族として描かれることが多い。

漁父の利

漁父の利…実際に戦おうとしたのは「趙」の国と「燕」の国。ただ、「趙」の国の家来が、恵王に「両国が争って、人民が疲弊したあとに、秦の国が攻めて來たらどうするのか」と諫めたため、恵王は「燕」の国を攻めるのを思いとどまった、という話。

朝三暮四

朝4つ



夕3つ



↑ 猿たちは朝早くに、たくさん食べられた方が得!と考えた。

その他

朝盈夕虚

朝開暮落

(人の一生は儂いということのたとえ)、

朝改暮変

朝令暮改

(命令や制令、法律などがすぐに変わっ

てしまい、しっかりと定まることがないこと。)など、「朝○暮×」という四字熟語は、一日のうちで変化が起こ

るほど短くて儂いことを表すものが多いことが分かる。